農技セ第 5511 号
令和８年 11 月５日

各関係機関長　殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所長

令和８年度農作物病害虫発生予察情報について

令和８年度農作物病害虫発生予報第 11 号を発表したので送付します。

令和８年度農作物病害虫発生予報第 11 号

令和８年 11 月５日
徳　　島　　県

Ⅰ.果樹

果樹共通

果樹カメムシ類*(令和８年５月 13 日、８月３日付けで注意報発令)*

1)予報内容

発生量　　平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)10 月１日～25 日までの予察灯調査において、勝浦町では、ツヤアオカメムシが 302 頭と、平年(309 頭)並の誘殺となったが、チャバネアオカメムシは 462 頭と、平年(207 頭)の 2.2 倍誘殺された。上板町では、ツヤアオカメムシが 509 頭と、平年(156 頭)の 3.3 倍、チャバネアオカメムシは 352 頭と、平年(49 頭)の 7.2 倍誘殺された(表 1)。

(2)10 月 26 日～30 日におけるカンキツの巡回調査では、被害果の発生圃場率が 37.5%、被害果率が 0.5%と、平年(37.5%、1.2%)並の発生である。

(3)高松地方気象台が 10 月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)温州ミカン、キウイフルーツ及びカキ園等では、飛来を認めたら早急に防除を行う。

表１　予察灯における果樹カメムシ類の誘殺数

［ツヤアオカメムシの誘殺数］

月	半旬	勝浦町			上板町		
		2026年	2025年	平年	2026年	2025年	平年
10	1	64	0	148	21	44	56
	2	64	23	78	12	25	44
	3	92	5	37	228	62	26
	4	41	1	31	211	50	19
	5	41	0	15	37	0	11
	6		0	8		18	7
11	1		0	4		0	3
	2		0	17		7	11

［チャバネアオカメムシの誘殺数］

月	半旬	勝浦町			上板町		
		2026年	2025年	平年	2026年	2025年	平年
10	1	174	0	135	111	83	31
	2	49	2	52	149	26	7
	3	110	9	14	63	34	8
	4	47	2	5	21	11	2
	5	82	1	1	8	4	1
	6		1	1		0	0
11	1		0	0		2	0
	2		0	1		0	0

Ⅱ.野菜

冬春トマト

コナジラミ類(主にタバココナジラミ)

1)予報内容

発生量　　平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「少～中」

2)予報の根拠

(1)10 月 26 日～30 日に行った巡回調査では、発生圃場率が 100.0%、寄生葉率が 25.6%と、平年(83.8%、15.7%)に比べてやや高い。

(2)高松地方気象台が 10 月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2)葉裏にも十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。

(3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

冬春ナス

うどんこ病

1)予報内容

発生量　　平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)10 月 26 日～30 日に行った巡回調査では、発生圃場率が 14.3%と、平年(38.6%)に比べてやや低いが、発病葉率は 3.1%と、平年(3.7%)並の発生である。

(2)高松地方気象台が 10 月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2)罹病葉は伝染源になるので、見つけ次第圃場外に持ち出し処分する。

(3)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

すすかび病

1)予報内容

発生量　　平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)10 月 26 日～30 日に行った巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が 5.0%、発病葉率が 0.1%)。

(2)高松地方気象台が 10 月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(2)罹病葉は伝染源になるので、見つけ次第圃場外に持ち出し処分する。

(3)薬液が下葉にも十分付着するよう丁寧に散布する。

(4)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1)予報内容

発生量　　平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)10 月 26 日～30 日に行った巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。

(2)高松地方気象台が 10 月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並

か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。
3)防除上注意すべき事項
(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
(2)葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも付着するよう丁寧に散布する。
(3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

アザミウマ類
1)予報内容
発生量　　平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」
2)予報の根拠
(1)10 月 26 日～30 日に行った巡回調査では、発生圃場率が 28.6%と、平年(40.5%)並の発生であるが、寄生葉率が 0.3%と、平年(2.7%)に比べてやや低い。また被害果の発生圃場率が 14.3%、被害果率が 0.6%と、平年(5.0%、0.1%)に比べてやや高い。
(2)高松地方気象台が 10 月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。
3)防除上注意すべき事項
(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

コナジラミ類(主にタバココナジラミ)
1)予報内容
発生量　　平年並(前年並)で、発生程度は「多」
2)予報の根拠
(1)10 月 26 日～30 日に行った巡回調査では、発生圃場率が 100.0%、寄生葉率が 46.9%と、平年(93.7%、29.9%)並の発生である。
(2)高松地方気象台が 10 月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。
3)防除上注意すべき事項
(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
(2)葉裏にも十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。
(3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

ハダニ類
1)予報内容
発生量　　平年並(前年並)で、発生程度は「少」
2)予報の根拠
(1)10 月 26 日～30 日に行った巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が 3.2%、寄生葉率が 0.1%)。
(2)高松地方気象台が 10 月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。
3)防除上注意すべき事項
(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
(2)葉裏にも十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。
(3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

秋冬ダイコン
アブラムシ類
1)予報内容
発生量　　平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」
2)予報の根拠

(1)10月26日～30日に行った巡回調査では、発生圃場率が28.6%、発生程度指数が0.4と、平年(22.4%、0.4)並の発生である。
(2)高松地方気象台が 10 月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項
(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

アブラナ科野菜共通

アブラムシ類

1)予報内容
発生量　　平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠
(1)10 月 26 日～30 日におけるブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が 69.2%と、平年(59.5%)並の発生であるが、寄生株率が 3.6%と、平年(15.5%)に比べてやや低い。
(2)高松地方気象台が 10 月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項
(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
(2)葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも付着するよう丁寧に散布する。
(3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

コナガ

1)予報内容
発生量　　平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「少」

2)予報の根拠
(1)10 月 26 日～30 日におけるブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が 38.5%と、平年(20.8%)に比べてやや高く、10 株当たり寄生幼虫及び蛹数が 0.3 頭と、平年(0.1 頭)に比べて高い。
(2)高松地方気象台が 10 月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項
(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
(2)葉裏に寄生しているので、薬液が葉裏にも付着するよう丁寧に散布する。
(3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

モンシロチョウ

1)予報内容
発生量　　平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「少」

2)予報の根拠
(1)10 月 26 日～30 日におけるブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が 15.4%、10 株当たり幼虫数が 0.2 頭と、平年(8.4%、0.1 頭)に比べてやや高い。
(2)高松地方気象台が 10 月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項
(1)若齢幼虫期の防除に努める。

秋冬ネギ

さび病

1)予報内容
　発生量　　平年並(前年並)で、発生程度は「少」
2)予報の根拠
(1)10 月 26 日～30 日に行った巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。
(2)高松地方気象台が 10 月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。
3)防除上注意すべき事項
(1)多発すると防除が困難になるので、発病前から定期的に薬剤を散布して予防する。
(2)肥料切れすると発生が多くなるので、適切な肥培管理に努める。

アブラムシ類
1)予報内容
　発生量　　平年並(前年並)で、発生程度は「少」
2)予報の根拠
(1)10 月 26 日～30 日に行った巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が 4.4%、寄生株率が 0.1%)。
(2)高松地方気象台が 10 月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。
3)防除上注意すべき事項
(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
(2)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

ネギアザミウマ
1)予報内容
　発生量　　平年より多く(前年よりやや多い)、発生程度は「多」
2)予報の根拠
(1)10 月 26 日～30 日に行った巡回調査では、発生圃場率が 77.8%と、平年(60.0%)に比べてやや高く、被害度が 20.6 と、平年(3.5)に比べて高い。
(2)高松地方気象台が 10 月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。
3)防除上注意すべき事項
(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

ネギハモグリバエ
1)予報内容
　発生量　　平年よりやや少なく(前年よりやや多い)、発生程度は「少」
2)予報の根拠
(1)10 月 26 日～30 日に行った巡回調査では、発生圃場率が 11.1%と、平年(45.6%)に比べてやや低いが、被害度は 4.2 と、平年(2.4)並の発生である。
(2)高松地方気象台が 10 月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。
3)防除上注意すべき事項
(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
(2)被害葉は有力な発生源となるので、圃場周辺に放置せずに、速やかに処分する。

冬レタス
アブラムシ類
1)予報内容
　発生量　　平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2)予報の根拠
(1)10 月 26 日～30 日に行った巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が 8.4%、寄生株率が 0.3%)。
(2)高松地方気象台が 10 月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。
3)防除上注意すべき事項
(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

冬春ホウレンソウ

べと病
1)予報内容
発生量　　平年並(前年並)で、発生程度は「少」
2)予報の根拠
(1)10 月 26 日～30 日に行った巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。
(2)高松地方気象台が 10 月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。
3)防除上注意すべき事項
(1)徳島県では、本病原菌レース１～13 まで確認されているため、品種はレース１～13 に抵抗性があるものを利用する。
(2)病原菌は被害株上で越冬し、春になると分生胞子を形成して伝染源となる。春先の発生を抑制するために、薬剤を予防的に散布して伝染を防止する。
(3)葉が繁茂して軟弱となると被害が多いので、肥培管理に注意する。

アブラムシ類
1)予報内容
発生量　　平年並(前年並)で、発生程度は「少」
2)予報の根拠
(1)10 月 26 日～30 日に行った巡回調査では、発生圃場率が 14.3%、１株当たりの寄生虫数が 0.0 頭と、平年(7.3%、0.0 頭)並の発生である。
(2)高松地方気象台が 10 月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。
3)防除上注意すべき事項
(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
(2)葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも付着するよう丁寧に散布する。
(3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

シロオビノメイガ
1)予報内容
発生量　　平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」
2)予報の根拠
(1)10 月 26 日～30 日に行った巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が 16.2%、寄生株率が 2.8%)。
(2)高松地方気象台が 10 月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。
3)防除上注意すべき事項
(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
(2)葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも付着するよう丁寧に散布する。
(3)２㎜目合いの防虫ネットを被覆し産卵を抑制する。

冬春イチゴ

うどんこ病

1)予報内容

発生量　　平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)10 月 26 日～30 日に行った巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が 2.8%、発病葉率が 0.0%)。

(2)高松地方気象台が 10 月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2)罹病葉は伝染源になるので、見つけ次第圃場外に持ち出し処分する。

(3)古葉を早めに除去し、葉裏に薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。

(4)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1)予報内容

発生量　　平年並(前年より多い)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)10 月 26 日～30 日に行った巡回調査では、発生圃場率が 16.7%、寄生株率が 2.7%と、平年(19.7%、1.7%)並の発生である。

(2)高松地方気象台が 10 月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2)葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも付着するよう丁寧に散布する。

(3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1)予報内容

発生量　　平年並(前年より少ない)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)10 月 26 日～30 日に行った巡回調査では、発生圃場率が 16.7%、寄生葉率が 0.4%と、平年(16.9%、1.3%)並の発生である。

(2)高松地方気象台が 10 月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2)葉裏に寄生しているので、薬液は葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

(3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

野菜共通

ハスモンヨトウ*(令和８年６月５日付けで注意報発令)*

1)予報内容

発生量　　平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中」

2)予報の根拠

(1)10 月 26 日～30 日におけるブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が 76.9%と、平年(43.1%)に比べてやや高いが、寄生株率が 4.3%と、平年(3.5%)並の発生である。

(2)10 月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査９地点の平均)は、10 月１日～20 日まで平年に比べ

てやや少なく推移していたが、10 月 21 日～31 日までの誘殺数は 1,261 頭と、平年(841 頭)の 1.5 倍と、急激に増加した(図１)。

(3)高松地方気象台が 10 月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、若齢幼虫期に防除を行う。

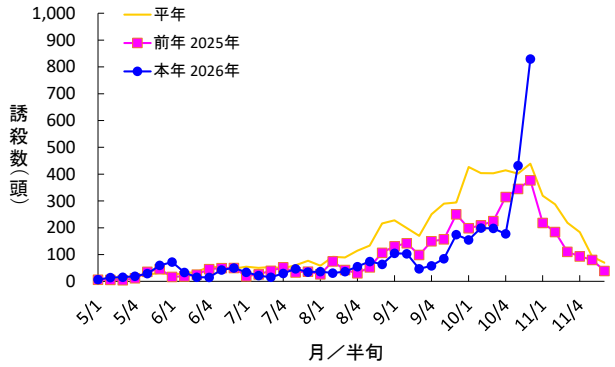


図１ ハスモンヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)
＊徳島市,石井町,阿波市,吉野川市,東みよし町,三好市の９地点平均

シロイチモジヨトウ*(令和８年６月５日付けで注意報発令)*

1)予報内容

発生量　　平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「中」

2)予報の根拠

(1)10 月 26 日～30 日におけるブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が 38.5%と、平年(24.3%)に比べてやや高く、寄生株率が 5.5%と、平年(1.6%)に比べて高い。

(2)10 月 26 日～30 日における冬レタスの巡回調査では、発生圃場率が 12.5%、寄生株率が 0.3%と、平年(14.8%、0.5%)並の発生である。

(3)10 月 26 日～30 日における秋冬ダイコンの巡回調査では、発生圃場率が 71.4%、寄生株率が 1.7%と、平年(9.3%、0.2%)に比べて高い。

(4)10 月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査７地点の平均)は、10 月１日～31 日において 811 頭と、平年(709 頭)並に推移している(図２)。

(5)高松地方気象台が 10 月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、若齢幼虫期に防除を行う。

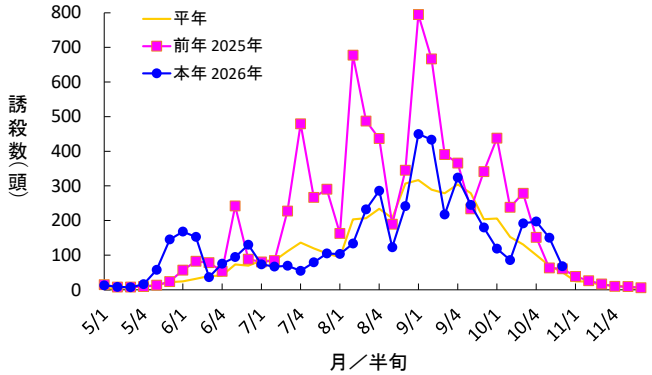


図２ シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)
＊徳島市、石井町、阿波市、吉野川市の７地点平均

オオタバコガ

1)予報内容

発生量　　平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)10 月 26 日～30 日における冬レタスの巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が 1.0%、寄生株率が 0.0%)。

(2)10 月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査６地点の平均)は、10 月 1 日～31 日まで平年に比べてやや少なく推移している(図３)。

(3)高松地方気象台が 10 月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)結球野菜では、幼虫食入後は薬剤の効果がないので、結球直前までに、使用基準に基づき必ず薬剤防除を行う。

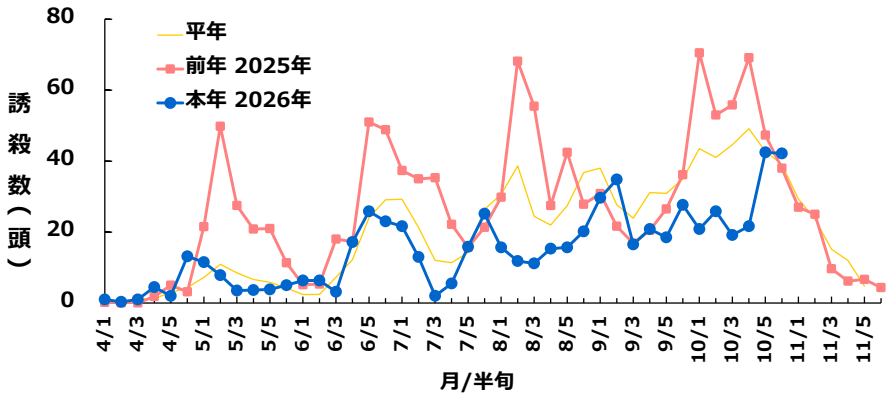


図３　オオタバコガ　フェロモントラップ誘殺数推移

＊阿波市・三好市･東みよし町・石井町の６地点平均

Ⅲ．その他

1)薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。

2)防除等の詳細については、徳島県植物防疫指針を参照する。

発生量の表示

発生程度：甚＞多＞中＞少＞無

発生量：多い＞やや多い＞並＞やや少ない＞少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所

ＵＲＬ：　*https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujosho/*

○　病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。